

令和7年 9月 3日

川崎市議会議長 原 典 之 様

麻生区

地域猫サポーターHKK-CATS

代表

野良猫対策に関する陳情

陳 情 の 要 旨

市は野良猫対策として地域猫サポーター制度を設け、野良猫を地域猫とする政策を行っていますが、地域猫には様々な課題があります。その課題を解決する有効な手段が、猫の保護譲渡です。猫の保護譲渡の推進に向けた新たな取組の検討を求めます。

陳 情 の 理 由

地域猫とは、野良猫に不妊去勢の手術を施し一代限りの命を地域で見守りながら、緩やかに野良猫の数を減らすという施策です。野良猫の頭数の多い場所では全頭保護することは難しく、繁殖の抑制をして元の場所に戻すこの方法は、殺処分を無くすことには有益でした。しかし、地域猫活動には様々な問題があります。

1 屋外で猫に給餌する行為に対する嫌悪

置き餌の禁止や猫トイレの設置などの努力をしても、餌場周囲の汚れや住宅敷地内の糞尿を無くすことは難しいため、周囲への理解を求めても猫の給餌を受け入れがたい一定数の方がいる。

2 給餌により猫が集まってしまう

給餌している限り集まる猫を次々捕獲し施術し続けなければならない、地域猫サポーターの負担が大きい。猫は繁殖力が強いので見逃せば一気に増えて

しまう。

3 人馴れした猫に対する虐待行為

給餌により警戒心の薄れた猫を虐待目的で捕獲する行為を助長する懸念がある。

4 頭数ゼロまでは時間がかかる

地域猫の自然死による頭数ゼロには数年間の活動継続が必要であり、給餌者の金銭負担が大きい。また、高齢化や転居で給餌の継続が途絶えると、集まってしまった猫が飢えてゴミあさりの被害につながってしまう。

5 餌場に捨て猫される

ここならご飯がもらえると、安易に猫捨てが行われてしまう。

この問題を解決するには、地域猫という屋外での給餌行為よりも、猫を保護し、里親に譲渡する方法が有効な対策であると思います。以前は保護猫の里親を見つけることが困難で保護ボランティアが自宅に多頭の猫を抱えるという問題がありましたが、近年ではテレビ番組の影響もあり保護猫が一般に認知されています。市内でも、保護猫の譲渡会が多く場所で行われるようになっていきます。子猫だけでなく成猫の里親希望も多くなり、人馴れしている猫であれば成猫でも里親につなげられるようになってきました。当グループが所属する譲渡会において、2024年（令和6年）に保護譲渡につなげた総数は100頭、そのうち1歳以上の成猫は29頭にのぼります。これは保護された猫がシェルターではなく保護ボランティアの家庭内で飼育されることで人馴れが早く進み、譲渡につなげることができた結果です。保護活動への支援制度があれば、保護した猫を譲渡まで一般家庭で保護する預かりボランティアとして保護活動に参加しやすくなる方が増え、新たな施設を建設することなく速やかに多くの猫を保護することが可能となり、地域猫の自然死を待つよりも時間的にも早く野良猫問題を解決することができます。

地域猫の屋外給餌による様々な問題も無くなります。本市は関東に位置する政令指定都市の中で人口密度が最も高い上に、緑被率が最も低い自治体になっています。そのため、これまでの地域猫活動で一定の成果が出ているものの、本市が他都市と異なり、市街地の割合が高いことから、先述の地域猫活動における様々な課題が生じやすい環境であると言えます。続いて、地理的側面から

の課題です。市ではアニマモールかわさきという動物愛護センターがありますが、本市は東西に長く、全ての地域の猫をここで保護することは困難で、譲渡会の利用も困難になります。しかし、動物愛護センターは、最近増えている多頭飼育崩壊等の問題が発生したときにその能力を発揮することができるため、保護譲渡への支援制度を受けたボランティアによる活動とは別の軸で野良猫対策を行えると思います。

以上の理由から、野良猫対策の有効な手段として、猫の保護譲渡の推進に向けた新たな取組への検討を求めます。